

令和5年度 第1回  
川口市文化財保護審議会  
議事録

会 議 名	第1回川口市文化財保護審議会
開 催 日 時	令和5年8月2日(水) 15時30分～17時00分
開 催 場 所	川口市立文化財センター 3階 図書室
出 席 者	委 員(会長◎、副会長○) ◎有元修一、金箱文夫、鈴木淳、鈴木誠 田村均、三田村佳子(6名)※4名欠席 事務局 丸山次長兼文化財課長 鈴木課長補佐兼管理係長 谷川文化財保護係長 金子課長補佐兼埋蔵文化財係長 桑山主任、茂木主任、浅井主任
議 事	指定候補文化財調査について (1) コンニャクギトウ (2) 東本郷曲輪遺跡出土金属製品
報 告	(1) 文化財センターの今後について (2) その他
公開/非公開の別	公開
傍 聴 人 の 数	0人
会 議 資 料	令和5年度第1回川口市文化財保護審議会会議資料

## 審 議 経 過

### ◎ 第1回川口市文化財保護審議会

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事録署名委員の指名

川口市文化財保護条例第8条に基づき、会長が議長になり、会議開始に際して、出席委員が定数に達していること、傍聴者がいないことを確認し、議事録署名委員に、出席委員の中から指名した。

### 4 議事

指定候補文化財の調査について

#### (1) コンニャクギトウ

議長 事務局より説明を求める。

事務局 資料に基づき説明する。

議長 事前調査を行った委員より説明を求める。

委員 かつて、埼玉県全域では春から夏にかけて厄神除けの行事が行われており、一部地域では獅子が関わる「オシシサマ」という行事として行われている。獅子頭を持って村の中を廻ったり、あるいは獅子頭を被って村中の家の中を貫けて歩いたりする行事が盛んに行われており、川口でもいくつも行われていた。上尾の八枝神社や加須の玉敷神社では獅子頭の貸出しも行われ、県北では、加須の玉敷神社の獅子頭を借りて行う行事が多く行われていた。

獅子舞の中でも、一人立三頭獅子と呼ばれる形式では、秋には舞を行うが、春や夏に春ギトウや夏ギトウとあって、獅子頭を被って村を廻り、また、村の家の中を貫けて歩く行事を行うことが多い。今回の調査対象の行事の獅子頭は、一人立三頭獅子の獅子頭の形式であるにも関わらず通常のものより小さいため、この獅子頭を被って舞うのは難しいと思われる。

また、コンニャクについては、コンニャク閻魔や庚申様のコンニャクが有名で、ほとんどは厄をとるなどのご利益がある。鳩ヶ谷のコンニャクギトウについては、行事自体が比較的新しいので、行事を始めた人が新しい知識を寄せ集めたのではないかと思われる。その辺の事情を探ることは難しいが、他の行事とは違う特異性がある。

議長 新しうとはいつごろか。

事務局 おそらく、明治から大正くらいに村の中を廻って祈禱を行う行事の原型ができあがり、そこにコンニャクが入ってきたのではないかと思われる。

委員 コンニャクについては、コンニャク閻魔などが近くの地域にあるので、そのあたりから入ってきた知識と考えられるが、獅子との関わりは分からない。

委員 軽トラックというのがおもしろい。軽トラックの前にリヤカーを使っていたという点で、明治から大正にかけてというのは納得いく。

事務局 もともと獅子は置いて祀っていて、それとは別に祈禱を行い、札を配っていたと調査では聞いている。

委員 獅子頭の特徴、系統はどのようなものか。  
市の指定になっている獅子もあると思うが、他の鳩ヶ谷や川口のものとの同一性はあるか。

事務局 他の市指定文化財としては江戸袋の三頭獅子があり、細かい部分についてまだ比較はしていないが、形状は龍頭型と呼ばれる同じ系統のもののように思われる。

議長 指定を審議するための調査を三田村委員と事務局に依頼する。指定した後の保存会をどのように運営していくのかなどの状況も含めて調査をしてほしい。

## (2) 東本郷曲輪遺跡出土金属製品

議長 事務局より説明を求める。

事務局 資料に基づき説明する。

議長 質問、意見を求める。

委員 殉葬墓であるかわからないのは、馬の骨の痕跡がまったくないから、ということか。

事務局 そのとおりである。ただ、馬の頭部を覆う面繫の装具が一式出土している。

議長 出土したときの状況として実際に馬の頭に装着した状態で埋められたかどうかはわからないのか？

事務局 バラバラだがまとまって出土しているが、溝の幅が 56 cm ぐらいで馬一頭を埋葬するには狭い状況であった。

議長 文化財指定に向けての調査を金箱委員と事務局に依頼する。

委員 東本郷曲輪遺跡は発掘作業員として参加していた。密集した古墳群があった場所で、かつて、GHQが航空写真を撮影していて、現在、文化放送があるあたりには、古墳と思われるものがある。北から関東平野の埼玉県域に入ってきた文化としては、さきたま古墳群を見逃すことができないが、それに対して太平洋沿いに東京湾を反時計周りに入っていく海流が流れ着く最奥地が、今回発掘調査を行った地域である。

特にとりにある、足立区の伊興遺跡は、子持勾玉なども出土しており、当時の中心的な場所ではないかと思込まれている地域である。東本郷曲輪遺跡はそれに隣接している地域なので、今後の発掘調査でさまざまな成果があがってくると、古墳時代の中期の状況を考察していく上で、見逃すことのできない遺跡群になると言えるのではないかと思う。

## 5 報告

### (1) 文化財センターの今後について

議長 事務局より説明を求める。

事務局 資料に基づき説明する。

議長 質問、意見を求める。

委員 新たに資料館等をつくる予定などはあるのか。

事務局 現在のところ予定はない。

委員 今あるものは、すべて収蔵庫にしまうことになるのか。

事務局 一部は郷土資料館及び歴史自然資料館にて展示するが、残りは収蔵庫にしまう予定である。

委員 展示できなくなるものについては、収蔵庫で目玉になるものを一部見せる機会をつくるなど工夫をしてほしい。

事務局 収蔵庫を一部、公開できる方法についても検討していく。

委員 保存していかなければならないという使命もあるので、大変なことであるかと思うが工夫をして公開も考えてほしい。

議長 収蔵庫を視察する機会をつくってほしい。

委員 現状の文化財センターの来館者数はどれくらいなのか。

事務局 令和4年度文化財センターの来館者数は1,200人、郷土資料館は

3,467人である。

委員 学校の子供の見学も含んだ人数なのか。

事務局 含んだ人数である。

新型コロナウイルス感染症の影響で、学校の社会科見学がなくなり、来館者数が落ち込んだ。現在は企画展示なども行っている郷土資料館の方が多くの来館者に利用いただいている。今後は、展示内容を充実して参りたい。

委員 図書室資料の公開や、鋳物資料室の展示公開もなくなってしまうのか。

事務局 一部は郷土資料館や歴史自然資料館に展示するが、現在の量ほどは展示できなくなる。

委員 展示スペースは限られても、展示内容を工夫して取り組んでいって欲しい。

議長 話題作りをして存在感を出すことも大切である。今後の展示方法に工夫をして欲しい。

また、本格的な博物館が必要だということを、我々もそれぞれの立場で声に出していくようにしたい。

## (2) その他

### 芝崎家住宅の概要について

議長 事務局より説明を求める。

事務局 前回の審議会の内容の補足を資料に基づき説明する。

議長 質問、意見を求める。

～意見なし～

### 令和4年度実施事業

事務局 資料に基づき結果報告。

議長 質問、意見を求める。

～意見なし～

## 6 その他

議長 審議会全体で質問、意見を求める。

委員 田中家住宅のお庭が「Let's enjoy TOKYO」というウェブサイトで「東京近郊の穴場“邸園”」として、掲載されていたので参考までに紹介する。

議長 全体を通して質問、意見を求める。  
～意見なし～

## 7 閉会

議長 以上で、議事を終了する。

議事録署名

\_\_\_\_\_  
⑩

\_\_\_\_\_  
⑩